

1 主要事業

- ・須高地域の行政と連携して妊産婦をサポートする「須坂モデル」の取組みや近隣市町村と連携した産後ケア事業の受託等により、産科医療を充実
- ・感染症医療の中核病院として、新型コロナウイルス感染者の積極的受入れ等、感染症医療に寄与
- ・院内のワクチン接種と須坂市のワクチン集団接種会場への医師及び看護師の派遣により、ワクチン接種体制を強化
- ・総合内科医養成のための寄附講座を4月に開講
- ・特定行為ができる看護師を育成
(令和3年9月に第1期修了、10月に1区分を追加し第2期開講)

2 経営改善の取組

- ・夜間看護補助者の配置による夜間100対1急性期看護補助体制加算及び夜間看護体制加算の算定開始
(R3.8月から)
- ・コンサルタントを活用した医薬品の価格交渉を強化。薬価に対する値引率は全国平均(14.10%)以上の14.71%を達成
- ・診療材料の価格交渉を行い、昨年度の診療実績ベースで年額16,500千円の費用を削減
- ・全体朝礼における院長の経営状況に対するトップメッセージにより、スタッフの経営改善の意識を向上

3 働き方改革への対応

- ・夜間看護補助者の導入により看護師のタスク・シフトを推進
- ・医師事務作業補助者の増員により医師のタスク・シフトを推進
- ・毎月パート長に超勤と有給取得の状況を周知し、超勤縮減と有給取得を推進

4 経営指標等

項目	区分	上半期実績	上半期目標	対目標比	前年度	対前年度比
延患者数	入院	36,531人	37,838人	96.5%	37,002人	98.7%
	外来	58,637人	55,833人	105.0%	54,256人	108.1%
新患者数	入院	2,066人	2,024人	102.10%	2,191人	94.3%
	外来	9,979人	9,991人	99.9%	8,184人	121.9%
平均在院日数		15.2日	16.9日	△1.7日	13.7日	1.5日
病床利用率		68.6%	74.6%	△6.0ポイント	67.0%	1.6ポイント
紹介率		29.5%	34.0%	△4.5ポイント	35.8%	△6.3ポイント
逆紹介率		28.3%	21.0%	7.3ポイント	24.9%	3.4ポイント

5 損益計算書

(単位：千円)

	R 3 上半期 実績a	R 3 上半期 計画b	対計画増減 a-b	R 2 上半期 実績c	対前年度 増減a-c
経常収益 (ア)	3,525,909	3,552,756	△26,847	3,402,398	123,511
医業収益	2,902,230	2,937,947	△35,717	2,786,166	116,064
運営費負担金収益	505,491	505,491	0	546,786	△41,295
その他経常収益	118,188	109,318	8,870	69,445	48,743
経常費用 (イ)	3,722,507	3,682,970	39,537	3,605,053	117,454
医業費用	3,546,663	3,507,126	39,537	3,421,940	124,723
財務費用	47,374	47,374	0	54,854	△7,480
その他経常費用	128,470	128,470	0	128,260	210
経常損益 (アーイ)	△196,598	△130,214	△66,384	△202,655	6,057
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (アーイ+ウ)	△196,598	△130,214	△66,384	△202,655	6,057
病床確保料 (エ)	308,282	242,731	65,551	0	308,282
当期純損益 (アーイ+ウ+エ)	111,684	112,517	△833	△202,655	314,339

令和3年度上半期の事業概要

こころの医療センター駒ヶ根

1 主要事業

- ・「m-ECTセンター」（令和4年1月開設）について、改修工事を開始するとともに、週2回の頻度で1日に5人（現行1日に3人）まで治療可能な体制について運用面を検討
- ・「依存症医療センター」（令和4年3月開設）について、依存症治療運営検討委員会を開催し、センターの開設目的を中心に体制について検討
- ・ゲーム・ネット依存症治療（令和4年3月開始）について、全3回のゲーム・ネット依存症チーム会を開催し、治療体制及び家族支援並びに情報発信面から診療体制の整備について検討
- ・「子どものこころ総合医療センター（仮称）」について、院内に4つの検討チーム（新病棟検討チーム、病床転換検討チーム、A1病棟・児童外来後利用検討チーム、新病棟思春期デイケアチーム）を設置し、新病棟の運営方法、既存病棟の病床転換、後利用等必要な各種検討事項を院内一体となり協議
- ・「児童・思春期、青年期精神科医療懇談会」を2回開催し、学識者・児童支援者・相談機関関係者等からの意見・要望を集約し「子どものこころ総合医療センター（仮称）」のあり方や必要な機能等を明確にし、基本計画の基礎部分となる基本構想を策定
- ・精神科地域包括ケアシステムの一資源として、訪問看護サービスを提供するため「精神科訪問看護ステーション」（令和4年10月開設）について、開設準備室を設置し検討を開始
- ・医療の質の向上と病院運営の透明化のため、機能評価を8月に更新受審。S評価が7項目、Aが79項目、Bが1項目という高評価で更新認定（初回S評価5項目、A79項目、B3項目）

2 経営改善の取組

- ・病床利用率を向上させ延患者数の増加を図るため、3点の取組みを実施
 - ①入院予定日の前倒しによる入院希望者の早期受け入れを行い、新規入院患者を確保
 - ②安心して確実な地域生活が可能となる治療のための適切な入院期間の確保
 - ③m-ECTセンター開設に伴う施術数の増加及び入院患者数の増加
- ・月単位で病棟ごとに病床利用率の目標を設定し、進捗管理を行うとともに直近の目標達成状況を各セクションへ通知
- ・職員のコスト意識の向上のため、超過勤務手当等の費用削減を院内全職員に周知徹底

3 働き方改革への対応

- ・ワークライフバランスの推進を図るため、11月から一部の病棟について、二交代制勤務試行に向けた検討を実施
- ・外来看護当直の夜間勤務に向けた検討を開始
- ・医師のタスク・シフティングを推進するため、外来クラークを2人配置し、医師事務業務の削減を推進
- ・年次休暇の取得促進を行うとともに、有期雇用職員の勤務時間管理を徹底し、超過勤務時間を削減

4 経営指標等

項目	区分	上半期実績	上半期目標	対目標比	前年度	対前年度比
延患者数	入院	16,613人	18,708人	88.8%	16,544人	100.4%
	外来	19,632人	19,520人	100.6%	17,982人	109.2%
新患者数	入院	250人	261人	95.8%	255人	98.0%
	外来	637人	555人	114.8%	530人	120.2%
平均在院日数		62.9日	70.0日	△7.1日	63.5日	△0.6日
病床利用率		69.2%	78.1%	△8.9ポイント	69.0%	0.2ポイント
紹介率		47.9%	52.0%	△4.1ポイント	50.1%	△2.2ポイント
逆紹介率		39.7%	40.0%	△0.3ポイント	43.6%	△3.9ポイント

5 損益計算書

(単位：千円)

	R 3 上半期 実績a	R 3 上半期 計画b	対計画増減 a-b	R 2 上半期 実績c	対前年度 増減a-c
経常収益 (ア)	1,020,585	1,066,599	△46,014	1,007,917	12,668
医業収益	608,744	655,282	△46,538	598,923	9,821
運営費負担金収益	365,221	365,221	0	378,857	△13,636
その他経常収益	46,620	46,096	524	30,138	16,482
経常費用 (イ)	1,065,080	1,070,649	△5,569	1,032,464	32,616
医業費用	1,027,768	1,032,972	△5,204	995,673	32,095
財務費用	16,416	16,416	0	18,965	△2,549
その他経常費用	20,896	21,261	△365	17,826	3,070
経常損益 (アーイ)	△44,495	△4,050	△40,445	△24,546	△19,949
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (アーイ+ウ)	△44,495	△4,050	△40,445	△24,546	△19,949
病床確保料 (エ)	48,919	41,073	7,846	0	48,919
当期純損益 (アーイ+ウ+エ)	4,424	37,023	△32,599	△24,546	28,970

令和3年度上半期の事業概要

阿南病院

1 主要事業

- ・保健所等と連携し新型コロナウイルス感染者の受入れ及び検査を実施、また住民への新型コロナウイルスワクチン早期接種に向け市町村を支援
- ・常勤医師が不在となった売木村診療所へ代診医師を派遣
- ・阿南介護老人保健施設入所者の在宅復帰支援や居宅訪問を積極的に推進、併せて、基本サービスの施設基準「強化型」の維持、さらに上位の算定を目指した申請を開始

2 経営改善の取組

- ・急性期看護補助体制加算25対1 看護補助者5割以上の新規加算の取得による入院診療単価の増
- ・正規事務職員1名の削減及び非常勤看護師2名の勤務時間の見直しによる給与費等の削減
- ・電子カルテシステム及び医療ガスの保守契約等について契約期間、契約相手方の見直し等による委託料の削減

3 働き方改革への対応

- ・住民の受診機会を増やし移動時間の解消による医師の負担軽減を図るため、オンライン診療導入の準備を開始
- ・医師の業務負担軽減を図るため非常勤当直医師を採用
- ・病棟看護師の業務負担軽減を図るべく病棟の看護補助者を1名増員し、看護職員と看護補助者との業務内容及び業務範囲の見直しを実施し早朝業務・遅番業務へ一部移行

4 経営指標等

(1) 阿南病院

項目	区分	上半期実績	上半期目標	対目標比	前年度	対前年度比
延患者数	入院	7,684人	7,636人	100.6%	7,134人	107.7%
	外来	20,420人	19,880人	102.7%	20,507人	99.6%
新患者数	入院	443人	400人	110.80%	383人	115.7%
	外来	1,385人	300人	-	244人	-
平均在院日数		15.0日	21.0日	△6.0日	18.1日	△3.1日
病床利用率		56.5%	56.4%	0.1ポイント	52.7%	3.8ポイント
紹介率		38.4%	23.0%	+15.4ポイント	28.7%	+9.7ポイント
逆紹介率		22.2%	16.0%	+6.2ポイント	18.7%	+3.5ポイント

(2) 阿南病院訪問看護ステーションさくら

項目	区分	上半期実績	上半期目標	対目標比	前年度	対前年度比
利用者数		1,495人	1,450人	103.1%	1,456人	102.7%

(3) 阿南介護老人保健施設

項目	区分	上半期実績	上半期目標	対目標比	前年度	対前年度比
利用者数	入所者	7,181人	7,020人	102.3%	6,615人	108.6%
	通所者	332人	201人	165.2%	180人	184.4%

5 損益計算書

(1) 阿南病院

(単位：千円)

	R 3 上半期 実績a	R 3 上半期 計画b	対計画増減 a-b	R 2 上半期 実績c	対前年度 増減a-c
経常収益 (ア)	876,965	854,381	22,584	802,652	74,313
医業収益	475,584	452,102	23,482	403,326	72,258
運営費負担金収益	374,037	374,037	0	378,979	△4,942
その他経常収益	27,344	28,242	△898	20,347	6,998
経常費用 (イ)	819,489	864,494	△45,005	821,746	△2,257
医業費用	786,867	831,870	△45,003	790,242	△3,375
財務費用	8,306	8,306	0	9,643	△1,337
その他経常費用	24,316	24,318	△2	21,861	2,455
経常損益 (ア-イ)	57,476	△10,113	67,589	△19,094	76,570
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	57,476	△10,113	67,589	△19,094	76,570
病床確保料 (エ)	226,916	139,964	86,952	0	226,916
当期純損益 (ア-イ+ウ+エ)	284,392	129,851	154,541	△19,094	303,486

(2) 阿南介護老人保健施設

(単位：千円)

	R 3 上半期 実績a	R 3 上半期 計画b	対計画増減 a-b	R 2 上半期 実績c	対前年度 増減a-c
経常収益 (ア)	119,785	113,414	6,371	107,011	12,774
介護老人保健施設収益	96,836	90,079	6,757	83,422	13,414
運営費負担金収益	21,008	21,008	0	22,919	△1,911
その他経常収益	1,941	2,327	△386	671	1,270
経常費用 (イ)	109,179	112,433	△3,254	109,324	△145
介護老人保健施設費用	103,405	106,658	△3,253	102,016	1,389
財務費用	3,410	3,410	0	5,183	△1,773
その他経常費用	2,364	2,365	△1	2,126	239
経常損益 (ア-イ)	10,605	981	9,624	△2,313	12,918
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	10,605	981	9,624	△2,313	12,918

令和3年度上半期の事業概要

木 曾 病 院

1 主要事業

- ・がん診療強化のための歯科口腔外科を開設（4月）
- ・産科医療の安定提供のため伊那中央病院と連携し、土日の緊急手術に備えた麻酔科医待機態勢を構築
- ・クラウドファンディングにより目標金額を達成し、DMA Tカー及び搭載医療機器並びに老健送迎車を購入予定
- ・外来診療におけるAI問診サポートの活用及び発熱外来への活用拡大
- ・電子カルテ更新業務の本格化等に備え、医療情報部を新設（8月）
- ・新型コロナウイルス感染症への対応として、木曾郡内町村のワクチン接種に協力
- ・災害拠点病院としての機能強化のため、地下水の浄化設備を整備（10月運用開始）

2 経営改善の取組

- ・京セラ式アメーバ経営の自律化に向け、四半期ごとの院長・事務部長面談を実施
- ・患者入院期間の情報管理を徹底し、DPC入院期間を意識したベッドコントロールで診療単価を維持
- ・介護報酬の新規加算（科学的介護推進体制加算、栄養マネジメント強化加算等）を届出（7月）
- ・コンサルタントを活用した診療材料価格交渉の実施（10月実施）

3 働き方改革への対応

- ・信大医学部附属病院医師によるスポット当直を活用し医師の負担を軽減（上半期6回）
- ・当直明け等の職務専念義務免除制度の試行（6月～）
- ・医師事務作業補助者の増員（2名）及び業務範囲の拡大
- ・看護師の特定行為研修受講の促進（第1期2名、第2期2名）
- ・NEAR法遺伝子検査機器を発熱外来に導入し、臨床検査技師のコロナ検査の負担を軽減
- ・医師労働時間短縮計画策定に向け、コンサルタントを活用し働き方改革を推進（10月契約締結）

4 経営指標等

（1）木曾病院

項目	区分	上半期実績	上半期目標	対目標比	前年度	対前年度比
延患者数	入院	23,620人	20,337人	116.1%	18,648人	126.7%
	外来	57,808人	59,045人	97.9%	53,795人	107.5%
新患者数	入院	1,248人	1,152人	108.3%	1,047人	119.2%
	外来	3,684人	3,474人	106.0%	3,016人	122.1%
平均在院日数		12.8日	14.1日	△1.3日	12.3日	0.5日
病床利用率		70.5%	58.2%	12.3ポイント	55.6%	14.9ポイント
紹介率		17.4%	22.0%	△4.6ポイント	23.9%	△6.5ポイント
逆紹介率		29.6%	26.0%	+3.6ポイント	26.1%	+3.5ポイント

(2) 木曾介護老人保健施設

項目	区分	上半期実績	上半期目標	対目標比	前年度	対前年度比
利用者数	入所者	7,555人	8,265人	91.4%	7,464人	101.2%
	通所者	0人	336人	-	329人	-

(3) 木曾病院介護医療院

項目	上半期実績	上半期目標	対目標比	前年度	対前年度比
利用者数	3,214人	2,976人	108.0%	2,640人	121.7%

5 損益計算書

(1) 木曾病院 ※介護医療院を含む

(単位：千円)

	R 3 上半期 実績a	R 3 上半期 計画b	対計画増減 a-b	R 2 上半期 実績c	対前年度 増減a-c
経常収益 (ア)	2,121,748	2,017,537	104,211	1,821,728	300,020
医業収益	1,616,701	1,527,779	88,922	1,345,433	271,268
運営費負担金収益	426,926	426,926	0	438,054	△11,128
その他経常収益	78,121	62,832	15,289	38,242	39,880
経常費用 (イ)	2,048,671	2,031,332	17,339	1,958,830	89,841
医業費用	1,970,810	1,955,193	15,617	1,869,384	101,426
財務費用	9,062	9,062	0	24,390	△15,328
その他経常費用	68,799	67,077	1,722	65,056	3,743
経常損益 (アーイ)	73,078	△13,795	86,873	△137,102	210,180
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (アーイ+ウ)	73,078	△13,795	86,873	△137,102	210,180
病床確保料 (エ)	142,994	178,671	△35,677	0	142,994
当期純損益 (アーイ+ウ+エ)	216,072	164,876	51,196	△137,102	353,174

(2) 木曾介護老人保健施設

(単位：千円)

	R 3 上半期 実績a	R 3 上半期 計画b	対計画増減 a-b	R 2 上半期 実績c	対前年度 増減a-c
経常収益 (ア)	127,628	135,752	△8,124	122,612	5,016
介護老人保健施設収益	103,729	112,004	△8,275	98,805	4,924
運営費負担金収益	20,222	20,222	0	23,034	△2,812
その他経常収益	3,677	3,526	151	774	2,903
経常費用 (イ)	129,903	135,055	△5,152	131,774	△1,871
介護老人保健施設費用	122,626	127,777	△5,151	122,082	544
財務費用	4,535	4,535	0	6,651	△2,116
その他経常費用	2,742	2,743	△1	3,042	△300
経常損益 (アーイ)	△2,275	697	△2,972	△9,162	6,887
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (アーイ+ウ)	△2,275	697	△2,972	△9,162	6,887

令和3年度上半期の事業概要

こども病院

1 主要事業

- ・診療機能を強化するとともに、多職種連携の円滑化や対外的責任者の明確化及び成果の報告等、効率的にPDCAを実行するため各種分野をセンター化（4月）
- 【小児アレルギーセンター】
長野県から指定された「アレルギー疾患医療拠点病院」として、重症・難治性アレルギー疾患患者の診療、地域住民に対する情報提供、医療従事者の人材育成、疫学や臨床研究への協力等の役割を推進
- 【成人先天性心疾患センター】
日本成人先天性心疾患学会認定の「連携修練施設」※1として、同学会より「総合修練施設」※2認定されている信州大学とも連携し、成人先天性心疾患の診断・治療を行うとともに、人材育成と臨床研究を支援
※1 連携修練施設：総合修練施設と連携して積極的に成人先天性心疾患に携わる施設
※2 総合修練施設：成人先天性心疾患総合診療体制における総合診療施設
- 【移行期医療支援センター】
他医療機関との連携を強化し、県内の移行期医療体制の整備を行うとともに、小児慢性疾患全般に対する小児期から成人期への移行医療を円滑に推進
- ・成育女性科を新規開設し、産科外来で適宜対応していた婦人科診療について院内に周知し、潜在的に存在する成人移行期患者を発掘しケアする体制を整備（4月）
- ・患者サポートセンターを開設し、患者の入院前から退院後までを多職種連携で支援
- ・働き方改革への対応のため、医師の勤務環境改善に向けた検討を実施

2 経営改善の取組

<収益確保>

- ・整形外科手術後の集中治療病棟での術後管理、術後リハビリ受入を開始
→4月から術後PICUに一泊入院してから一般病棟へ転棟する運用へ変更
- ・入院中の接種が包括となる薬剤を退院後に外来接種する運用へ変更し出来高で算定
→各診療部長へ退院後の接種を依頼し、7月から本格的に算定開始
※対象薬剤：シナジス（RSウイルス感染症予防注射、予防効果の維持のため毎月1回接種必要）
接種間隔1ヶ月以内に退院可能な場合は外来接種する運用へ変更
- ・RI検査装置による成人を対象にした認知症検査を9月から開始
→近隣医療機関（北アルプス医療センターあづみ病院、一之瀬脳神経外科等）から紹介を受け検査実施
- ・新型コロナワクチン接種実施による収益確保

<費用削減>

- ・物品購入・修理時の価格交渉の徹底
- ・医療機器保守契約の内容や台数等の仕様精査による保守委託料の縮減
- ・安価な同種同等品への材料切替
- ・コンサルタントを活用した医薬品価格交渉の強化

3 働き方改革への対応

- ・令和6年4月から開始する医師の時間外労働規制の適用及び令和17年度末に予定されているB水準の廃止目標に向け、医師の健康確保と地域医療提供体制の確保を両立しつつ、医師の労働時間の短縮を図るため、各診療科の実情に応じた勤務体制の検討、勤怠管理及び健康管理面の課題対応等について、コンサルタントを活用し、院長、各診療科部長及び医師、事務部で協議している。
- ・現在は、前記項目に加え、新体制に必要な医師数、タスクシフト等について検討している。

4 経営指標等

項目	区分	上半期実績	上半期目標	対目標比	前年度	対前年度比
延患者数	入院	26,188人	26,885人	97.4%	24,277人	107.9%
	外来	33,449人	33,958人	98.5%	30,676人	109.0%
新患者数	入院	1,951人	2,059人	94.8%	1,806人	108.0%
	外来	1,899人	2,079人	91.3%	1,770人	107.3%
平均在院日数		13.2日	12.1日	1.1日	13.2日	±0日
病床利用率		73.0%	71.9%	1.1ポイント	67.8%	5.2ポイント
紹介率		68.8%	77.0%	△8.2ポイント	69.8%	△1.0ポイント
逆紹介率		77.4%	73.9%	+3.5ポイント	74.2%	+3.2ポイント

5 損益計算書

(単位：千円)

	R 3 上半期 実績a	R 3 上半期 計画b	対計画増減 a-b	R 2 上半期 実績c	対前年度 増減a-c
経常収益 (ア)	4,178,580	4,325,835	△147,255	4,021,596	156,984
医業収益	3,162,141	3,315,353	△153,212	3,016,607	145,534
運営費負担金収益	845,623	845,623	0	884,115	△38,492
その他経常収益	170,816	164,859	5,957	120,874	49,942
経常費用 (イ)	4,201,654	4,313,552	△111,898	4,151,331	50,324
医業費用	4,029,038	4,138,727	△109,689	3,970,439	58,599
財務費用	40,213	40,213	0	65,768	△25,555
その他経常費用	132,403	134,612	△2,209	115,124	17,280
経常損益 (アーイ)	△23,074	12,282	△35,356	△129,734	106,660
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (アーイ+ウ)	△23,074	12,282	△35,356	△129,734	106,660
病床確保料 (エ)	109,865	107,306	2,559	0	109,865
当期純損益 (アーイ+ウ+エ)	86,791	119,588	△32,797	△129,734	216,525

令和3年度上半期の事業概要

信州木曾看護専門学校

1 主要事業

- ・新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底し、予定どおり授業を実施
- ・実習については、組換えを行うなど各実習施設との調整により概ね通年どおり
- ・学生確保に向け、新型コロナウイルス感染症まん延により昨年できなかった高校訪問を積極的に実施
- ・学校自己評価を実施、外部評価委員の評価とともにホームページに公開
- ・看護師国家試験の100%合格を目指した国家試験対策及び受験へのサポートを充実
- ・令和4年度開始の新カリキュラムへの対応

2 業務改善の取組

- ・令和4年度開始の新カリキュラムにスムーズに移行できるよう校内で検討会議を開催
(下半期には外部講師も交えた講師会議を予定)
- ・学生の意欲・知識の分析のため、専門業者のリサーチを導入し、学生指導に活用
- ・新型コロナウイルス感染症まん延による遠隔授業に即座に対応できるよう、Zoom2回線を契約するとともに受送信可能な部屋を4部屋増

3 実績等

項目	令和3年度実績(上半期)	令和2年度実績
高校訪問数	65校	5校
ガイダンス・模擬授業	7回	13回
オープンキャンパス	1回112人(保護者等含む)	2回170人(保護者等含む)
ホームページブログ	19回更新	36回更新

4 損益計算書

(単位：千円)

	R3上半期 実績a	R3上半期 計画b	対計画増減 a-b	R2上半期 実績c	対前年度 増減a-c
経常収益(ア)	78,683	79,724	△1,041	78,829	△146
看護師養成所収益	9,988	10,230	△242	9,988	1
運営費負担金収益	61,298	61,298	0	61,302	△4
その他経常収益	7,397	8,196	△799	7,540	△143
経常費用(イ)	72,348	85,419	△13,071	72,257	91
看護師養成所費用	71,497	84,568	△13,071	71,456	41
財務費用	3	3	0	1	3
その他経常費用	848	848	0	800	48
経常損益(アイ)	6,334	△5,695	12,029	6,572	△238
臨時損益(ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益(アイ+ウ)	6,334	△5,695	12,029	6,572	△238

令和3年度上半期の事業概要

本部研修センター・本部事務局

1 主要事業

- ・ 4月から相談員1名を本部事務局に配置し、職員の相談体制を強化
 - ・ 県立病院全体の画像診断体制強化のため、4月に本部画像診断センターをこども病院内に開設
木曽病院からの依頼により画像診断を実施（R3上半期実績3,320件）
 - ・ 各病院に精神看護経験者を配置するための病院間交流派遣について、研修実施要綱及び研修プログラムを策定
 - ・ 看護記録の改善に向け、8月に各病院看護記録指導者を対象とした研修を実施
 - ・ 令和2年度に導入した人事評価制度について、全職員及び評価者にアンケートを行い見直しを実施
 - ・ シミュレーション教育指導者委員会を2回開催し、情報共有事業で登録されたシナリオ（3本）の意見交換等を実施
- <新型コロナ対応関係>
- ・ 県からの要請を受け、新型コロナウイルス感染者（自宅療養者）の対応を行う長野県健康観察センターへ本部事務局の看護師を派遣（延べ18日）
 - ・ 職員の採用に関して、Web面接やオンラインによる学生説明会、インターンシップ等を実施
 - ・ 職員研修について、12件をオンラインで開催（参加人数438人）

2 経営改善の取組

- コンサルタントを活用した、医薬品費及び医療材料費の価格交渉を実施
- ・ 上半期の医薬品費削減額は機構全体で18,811千円。今後、下半期分の交渉を実施予定
- <遡及額>
- | 信州 | 駒ヶ根 | 阿南 | 木曽 | こども | 合計 |
|---------|-------|---------|---------|---------|----------|
| 6,441千円 | 757千円 | 1,139千円 | 7,045千円 | 3,429千円 | 18,811千円 |
- ・ 信州医療センターにおける医療材料費削減額は、昨年度実績ベースで16,500千円。下半期は木曽病院において、価格交渉を実施予定

3 施設等の使用実績（本部研修センター）

区分	R3上半期実績	R2上半期実績	対前年度増減
スキルラボ使用回数	259回	189回	70回
スキルラボ利用者数	1,482人	1,182人	300人
シミュレータ使用回数	227回	220回	7回
シミュレータ利用者数	1,293人	1,067人	226人

4 損益計算書

(単位：千円)

	R3上半期 実績a	R3上半期 計画b	対計画増減 a-b	R2上半期 実績c	対前年度 増減a-c
経常収益（ア）	22,528	24,436	△1,908	21,328	1,200
運営費負担金収益	20,160	20,160	0	20,956	△796
その他経常収益	2,368	4,276	△1,908	372	1,996
経常費用（イ）	196,366	189,274	7,092	177,123	19,243
一般管理費用	194,682	187,589	7,093	171,105	23,577
財務費用	265	265	0	55	211
その他経常費用	1,420	1,420	0	5,964	△4,544
経常損益（ア－イ）	△173,838	△164,838	△9,000	△155,795	△18,043
臨時損益（ウ）	0	0	0	0	0
当期純損益（ア－イ＋ウ）	△173,838	△164,838	△9,000	△155,795	△18,043